

夢湧、夢に夢中

第2号

令和7年4月18日 文責：大谷

阿蘇の春を告げる野焼きも終わり、新芽が顔を出し始める、うららかな季節となりました。

春の訪れに心弾ませる今日、わたしたち新入生のために、このような素晴らしい入学式で迎えてくださり、本当にありがとうございます。

校長先生をはじめ、皆様方からのあたたかい言葉をいただき、今、わたしたちの胸の中は、新しく始まる中学校生活への期待にふくらんでいます。新しい友だちや先生方との出会い、新しい教科も増える中学校の授業、自分の可能性や心を育ててくれる部活動など、楽しみなことがいっぱいです。

新入生代表として、これからの充実した中学校生活を送るために、学習面、生活面、友人関係の三つにおいて、目標を設定しました。

一つ、日々の授業を大切に、自学など積極的に学習に取り組みます。

一つ、きまりを守り、気持ちのよいあいさつを心がけ、規則正しい生活を送ります。

一つ、仲間を大切に、みんなを支える学年にします。この三つの目標を胸に、自らを高めていきたいと思います。

先生方や先輩方には、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、わたしたちも精一杯がんばりますので、どうぞよろしく願います。

今日からわたしたちの新しい中学校生活が始まります。南阿蘇中学校の生徒としての自覚と誇りをもち、先生方の教えと、先輩方が築いてこられた伝統を守り、仲間とともに、充実した中学校生活を送ることを、今ここに宣言し、「新入生誓いの言葉」といたします。

新入生七十三名を代表して宣誓してくれた田上綾夏さんの言葉には、並々ならぬ強い意志を感じた。なぜなら、そのときの田上さんの視線の先は、手元の原稿ではなく、常に正対しているわたしの瞳の奥に確かに届いていたからだ。

わたしも式中、式辞を話した。いくつになっても、何度やっても、厳粛ななか人前で話をするというのは、そう簡単なことではない。「心臓が飛び出しそうになる」という大げさな表現も、このときばかりは妙に合点がいくほどだ。おそらく田上さんも、大きな重圧の中で壇上に上がったことだろうと推察する。しかし、その重圧の一切を突き破るかのような力強い話しぶりは、田上さんの表情が見えていない多くの参列者にも届いていたというのだから、わたしが今さら言うまでもなかったということである。代表者の思いは、新入生全員の思いの集合体である。しかと受け止めて、新入生の思いに伝えねばならない。

ところで、入学式に同席した二、三年生は、新入生の思いをどのように受け取っただろうか。おそらく一年前や二年前の自分と重ねながら、あの当時、新鮮な心持ちの自分が、どのような夢や目標、思いを持って中学校の正門をくぐったか思い出したことだろうと思う。そして、あれから自身は、どう成長したのか。このような節目に立ち会う度に、それを単に「他人ごと」としてスルーするのではなく、「自分ごと」として捉え直してみると、きっと自身をさらに成長させられるように思う。ぜひ当時の自分を思い起こしながら、改めて「誓いの言葉」を読んでみてほしい。

そして、これからの一年を、どう過ごすか再考してみる。これは真に「自分ごと」であり、誰かが自分の夢や目標を考えてくれることではないことは、言うまでもない。今週はテスト三昧だった。きつとヘトヘトだろう。しかし、だからこそ今が旬である。問い「一つ、学習では…」に続くあなたの言葉を考えなさい」

■今週から始まった家庭訪問では、お忙しい中ご対応いただきありがとうございます。また来週24日(木)は授業参観・PTA総会・懇談会も予定しております。ご多用とは存じますが、併せまして御理解と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。